



ー クラブライフが心とからだと暮らしを変えるー

「元気なとやま」をつくるためスポーツクラブによる生き生きとした暮らしを提案します。

日本におけるスポーツの大切さを伝え、サポートしていきます。



NPO法人富山スポーツコミュニケーションズ

巻頭インタビュー Interview

国際サッカー連盟インストラクター・小野剛氏が「富山におけるスポーツの果たす役割」と題した講演を行った。ワールドワイドに活躍する日本サッカー界のキーパーソンは、「スポーツの力」を説くことで、日本の、富山の社会に何を語りかけたのか。(2011年1月15日(土) 富山県民会館302号室)

「地域スポーツの最先端を走る富山にエール！」

国際サッカー連盟インストラクター 小　野　剛

Football Fellowの素晴らしさ

今日の講演で私が語る「サッカー」という用語は、そのまま「スポーツ」と置き換えていただいても差し支えない。

1月に大分で行われたフットボールカンファレンス(※1)に出席した。カンファレンスに集う人々は肩書を越え、全て「Football Fellow(サッカー仲間)」だ。懇親会では日本代表・岡田(前)監督も、街クラブの指導者も、同じ目線のもとで交流を深めていた。

W杯南ア大会直前、日本代表最終メンバーを発表するチームミーティングで、岡田監督は「チームは一つの生命体だ。誰か一人でも『これくらいでいいか』と思ったらチーム全体が死んでしまう」と訴えた。その結果、選手同士が一つになり、素晴らしい戦いを繰り広げてくれたのはご存知の通り。仲間を信じることの大切さを、サッカーを通じて改めて知る機会となった。

スポーツと青少年の健全育成

現在、子供たちの遊びといえば「一人で」「屋内で」「体を動かさないで」の傾向にあると言われている。私たちが子供の頃は「何人かと」「外で」「体を動かして」遊んでいたものだ。特に「何人かと」という部分では、世代・学年を越えた交流が自然に図られていた。そのような交流は人生という意味での教育的な価値があるが、現在ではスポーツがないと、その機会がなくなるのではと危惧している。

私の住んでいる常磐線近郊の秋葉原・土浦・取手で、近年相次いで無差別大量殺傷事件が発生した。いずれも自分を「思い通りにいかない」「生きがいをなくした」と思い詰めた若者が犯行に及んでいる。彼らは失敗を知らずに育ち、社会に出てからの挫折に耐えられなくなっていると推察する。子供の頃から挫折を経験し、そこから向上を目指すことが求められるスポーツの社会的役割は、より大きくなっていくのではないか。

JFAの「RESPECT PROJECT」

岡田監督はW杯で選手を選考する基準として「負けず嫌いである」「向上心を持っている」といった要素に加え、「いろんな対象をリスペクト(尊敬)できる」ことを重要視した。対戦相手やコーチ、サッカーができる環境を整えてくれる人々をリスペクトすることで、スポーツを通じた人格形成が促進される。

JFA(日本サッカー協会)では、「大切に思うこと—RESPECT PROJECT—」を実施し、互いにリスペクトの心を持つよう働きかけている。特に子どもたちにも、学校の当番をきちんとやろう、レフェリー・ルールを尊重しよう、目を見て挨拶をし、握手を交わそう…プレーすることだけでなく、その環境を作ってくれている人たちに感謝しようと、そういう中からサッカーを通じて「大切に思う気持ち」を養い、心の成長



TAKESHI ONO

1962年生まれ、千葉県出身。筑波大学体育専門学群卒。W杯フランス大会ではコーチとして岡田武史監督(当時)を支え、本大会初出場を果たした日本代表を指導。サンフレッチェ広島監督、日本サッカー協会技術委員長などを歴任し、現在は国際サッカー連盟(FIFA)インストラクターを務めるかたわら、サッカー解説・評論分野でも活躍中。

を遂げてほしいと願っている。

スポーツがもたらす地域との交流

富山は総合型地域スポーツクラブが全国一発達し、サッカー・野球・バスケットボールのプロスポーツ間で連携を模索しているなど、「スポーツによる仲間づくり」を実践できる環境が整っている。ぜひ日本の最先端を富山が走って行ってほしい。

私もサンフレッチェ広島監督時代、「トップス広島」という活動を行っていた。サンフレッチェや広島カープ(プロ野球)、JTサンダース(バレーボール)、ワクナガレオリック(ハンドボール)など、広島のトップスポートチームが連携し、「オール広島 オール・スポーツ」を標ぼうし、「スポーツが楽しい」ということを県民に伝える活動を行っていた。

(2010年のFIFAパロンドールを獲得した)メッシが在籍しているバルセロナというクラブはサッカーで知られているが、実はバスケットボールチームがユーロリーグで優勝経験があり、ハンドボールなどのチームも同じユニフォームで活動している。サッカーチームだけでなく、クラブそのものにバルセロナ市民が誇りを持っている。こうした光景は、ヨーロッパでは当たり前のことになっている。

スポーツが結ぶ絆

NHKの山本浩アナ(現・法政大学教授)が、W杯メキシコ大会予選(1985年)の際に「国立競技場の曇り空の向こうに、メキシコの青い空が近づいてきている」と名実況を残した。日本代表が見上げた空、子供たちが見ている空、すべての空は一つにつながっている。空と同じように、スポーツもみんなをつなげている存在なのだと思う。

最後に、スポーツによって富山の皆さんのが絆で結ばれることを、心から祈っている。

(※1)日本全国のサッカー指導者が集結し、世界の著名指導者などから講習を受け、技術向上を目指す大規模な集会。日本サッカー協会主催。2011年は大分県別府市にて1月8日~10日の日程で行われた。

小野剛氏とTSC佐伯仁史理事長の座談会



講演会の後半は、小野剛氏の筑波大学蹴球部の後輩にあたるTSC理事長・佐伯仁史を交えて、座談会形式で進行。会場に訪れたカターレ富山・清原邦彦社長、富山グラウジーズ黒田祐社長ら、スポーツを熱く愛する人々との対話も活発に行われた。

(司会:チューリップテレビアナウンサー・五百旗頭幸男氏)

佐伯:小野さんの思う「スタジアムの世界基準」とは?

小野:「競技場」と「スタジアム」は根本的に違う。選手にとって使い勝手がいいだけでなく、市民=観客やスポンサーが365日集い、絆を深める場所がスタジアム。試合のない日は市民ホール的な役割を果たし、大事な商談を試合中のスタジアムで行うことで上質の接待が実現できている。

佐:カターレとしてのスタジアムへの将来展望は?

カターレ富山・清原社長:大変答えるのが難しい質問だ。専用スタジアムの必要性は当然感じているが、カターレ単独ではどうしようもない部分もある。まず「カターレの、富山のサッカーのために専用スタジアムが必要だね」と、県民の皆さんに共感を得られる活動をしていきたいと思う。

佐:小野さんの講演に「スポーツは相手を尊重する、ルールがある、レフリングが必要になる」という話があったが、審判の立場からどんな子供の育成を考えているか、聞かせていただきたい。

竹内元人・サッカー1級審判員:試合をコントロールする審判は、子供の育成に大きな役割を担っていると感じている。子供を導くこととともに、「自分達がどう見られているか」を意識する必要がある。審判も選手と同じように、研鑽を積んでいかなければならない。

小:ルールとは「縛る」ものではなく、お互いが心地よく過ごすためにできていったものだ。サッカーの審判にはミスがつきものだが、それもスポーツの一部。ミ

スがあってこそスポーツ。だからスポーツは楽しいとも言える。

佐:子供とスポーツの関係について、富山グラウジーズでは下部組織を重要視されているが?

富山グラウジーズ・黒田社長:もともとグラウジーズを設立したのは、富山において子供たちの目標になる存在を作るためだった。小・中・高校世代では成績を残すことは大事ではない。ゆとりを持たせた中で子供を指導していきたいと考えている。富山は施設など、ハード面は充実しているので、これからは指導者の育成をより大事にしていきたい。

司会:会場の皆さんから質問はありませんか?

フットサルクラブ経営者:日本のプロクラブと世界のプロクラブ、その違いは?

小:掲げている理念については、日本も世界も同じだ。欧州のクラブは、住民が必要にかられて「下から積み上げて」設立された歴史がある。日本のクラブには歴史がないので、「家を屋根から作り始める」方法を取った。しかし大切なのは、土台としっかりとつなげていくことだ。日本のクラブは今後、それぞれの地域とどう一体になってやっていくかが問われている。「地域」をキーワードにしているクラブは「強い」、という印象を持っている。

県内体協関係者:ある市で運動公園の構想を具体化しようとしている。子供たちが使えるサッカー場や競技場、公園を作りたい。ヨーロッパでの小さな街での実例を教えてもらいたい。

小:かつて松井大輔が在籍したグルノーブル(フランス)には、山々に囲まれた街の中心部に透明な屋根のスタジアム(Stade des Alpes)があり、景観を眺めながら観戦ができる。スタジアムの存在そのものが「グルノーブルに来てください」というPRになっている。

バーゼル(スイス)のスタジアム(St. Jakob-Park)も街中にあり、ショッピングモールや高齢者施設が併設されている。こうした「365日使えるスタジアム」は、維持が困難な日本の競技施設と違い、収入を生み、お荷物にならないという利点がある。ぜひ運動公園構想を成功させていただきたい。

司会:本日は小野さん、ご参加の皆様、ありがとうございました。

Report



これからは"なでしこ"の時代!!! 第1回 TSC なでしこオープンスクール



10月22日(土)、TSCとして初となる女性向けオープンサッカースクール「なでしこサッカースクール~広げよう!!サッカーの輪☆友だちの輪☆~」を開催。世代・経験を問わず、夢の中でボールを蹴る「サッカー女子」の歓声が響きました。女子にターゲットを絞った今後のスクール開催も、前向きに検討中です。

以下、TSCサッカースクール大川明日香コーチのレポートです。

当日集まったのは、総勢15名のサッカー女子のみなさん。当日の飛び入り参加や、親子での参加、サッカーデマネージャーをしている高校生の参加もあり、幅広い世代のなでしこたちが一緒にサッカーを楽しみました。

18:15から受付が始まりました。元気ななでしこたちの登場に、コーチもスタッフもみんな自然と笑みがこぼれました。参加者の中には、昨年度岩瀬イベントに来てくれた小学生や、コーチが以前一緒に野外活動をした小学生もいて、久しぶりの嬉しい再会となりました。

開校式では、TSC池森会長より挨拶があり、参加者はボールにたくさん触ることを約束し、みんなで握手をしました。

18:30からいよいよスクールが始まり、最初に「しっぽとり」をしました。「鬼やりたい!!」の子どもたちの声に圧倒されながらも、みんなで楽しく体を動かしました。二人組を作ったところでは、その日初めて出会った参加者同士が仲を深める場面も見られ、新しい仲間づくりの場にもなったのではないかと思います。

たくさん走り回りの時間が乾いたので、途中の休憩時間には、中部ペプシコーラ販売様から提供いただいたゲータレードを美味しそうに飲む参加者の姿も見られました。

休憩後はボールフィーリングを行いました。「ボールを投げて頭と肩を触ってキャッチ」というメニューの時には、「そんなのできないよ。」と言っていた子どもも、「頭を触ってキャッチ」それができたら「頭と肩を触ってキャッチ」と段階を追って挑戦していくことにより、最後には「頭と肩とお腹も触れたよ!」と達成感に満ちた笑顔を見せていたのでうれしかりました。

その後の「ボールまわし」や「前踏み」では、競争の要素を取り入れました。2人組を作り、練習をしたり競争をしたりすることで、個人プレーではなく、仲間と協力しながらサッカーをする楽しさを味わってもらうことができたのではないかと思います。

休憩を挟んでからの後半は、主にドリブルの練習をしました。線から線までドリブルという簡単なものに始まり、ドリブルの途中でコーンを軸に一回転したり、膝トラップや足裏でドリブルをしたりするなど、様々なバリエーションに挑戦しました。途中からは競争も入り、コーチがかつよくお手本を見せる場面もあり、とても盛り上がりました。

なんと言っても最後はやはりミニゲームです。2チームに分かれてそれぞれ「なでしこ7」「なでしこ最強」というチーム名を付けて一生懸命戦いました。両チームの握手で始まり、どちらのチームも「ヘイ」と声を出したり、手を挙げてアピールしたりするプレイヤーの姿が見られました。ゲームは1対1の同点でした。どちらのチームも最後まで一生懸命戦い抜いた、とても熱い試合でした。

閉校式では、もう一度握手をしました。閉校式の時よりも参加者同士の仲が深まった様子で、初めよりも多くの人と握手をしていました。その日初めて会った人同士でも、一緒にサッカーをするとこんなにも仲良くなれるのだ実感しました。

最後にみんなで記念撮影をしました。

今回のオープンスクール開催にあたり、ご協賛をいただいた株式会社グランドマイスター大海様、中部ペプシコーラ販売株式会社様、その他ご協力いただいたすべての関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。今後とも宜しくお願い申し上げます。

Report



「みんなでスポチャレ!」 サッカースクール報告

10月16日(日) 富山県岩瀬スポーツ公園で開催されたスポーツイベント「みんなでスポチャレ!」のサッカースクールをTSCが運営。スポーツを通じて親子の絆を深め、健康に対する意識を高めてもらおうと企画されたこのイベント。元なでしこリーガー江崎亜希子さんを特別コーチに迎えたサッカースクールの受付にも一時長い行列ができ、小学生以下の子供たち約130名が参加する大規模なスクールになりました。

江崎さんは「サッカーを楽しもう」との指導コンセプトのもと、TSCコーチ・大学生ボランティアと共同で子供たちを指導しました。さまざまなレベルや学年の子供がすぐに打ち解けられるよう工夫しながら、途中ボールフィーリングやドリブルの練習をはさみ、最後のミニゲームまで2時間弱。あっという間に時間が過ぎ、名残惜しそうに江崎さんと記念写真に納まる子供たちの姿があちこちで見られました。

今回のイベントを主催された株式会社TSC様、お忙しいスケジュールを縫って来富いただいた江崎さん、爽やかな雰囲気を作り出してくれた富山大学のボランティアの皆さん、そしてスクールに参加された子供たちと保護者の皆様に厚く御礼申し上げます。



「お出かけ支援募金」 チャリティライブ会場にて

10月8日(土)県民小劇場オルビスで開催されたチャリティライブ「わたると仲間たちの音楽会」にて、スポーツ観戦お出かけ支援募金を実施させていただきました。

この音楽会は、TSCクラブハウスパートナーである富山駅前シネマ街『唄うおでん屋・茶文』マスターの中村涉(なかむら わたる)さんが中心となって開催されました。中村さんがリーダーを務める「ミックス・ファミリー・バンド」のほか、伊藤敏博さんら県内で活躍する7組のミュージシャンが一堂に会し、賑やかなステージが繰り広げられました。

会場入口で、TSCスタッフが「スポーツ観戦お出かけ支援募金」を実施。開演前には佐伯理事長がステージに立たせていただき、募金への協力と理解を呼びかけました。その結果、中村マ

スター自ら製作された募金箱に次々と温かい善意が寄せられ、総額は49,771円に達しました。福祉施設や病気・障害を持つ方々のスポーツ観戦資金として活用させていただきます。

募金にご協力いただいたお客様、募金実施にご尽力をいただいた中村マスターはじめ関係者の皆様に、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

○ TSC DIARY 2011

- | | |
|--------------|-------------------------------------|
| 1月8日 | パレーボールVチャレンジリーグ公式戦に
『花椿(南砺市)』ご招待 |
| 1月14日 | TSC新年会 小野剛氏、県内プロスポーツ3社長ら来賓 |
| 2月21日 | 「第3回イタリアサッカークリニック」開催。
講師に河村優氏 |
| 5月4日～5日 | 「どろんこサッカー(小矢部市)」にコーチ4名が協力 |
| 6月18日 | 「TSCオープンスクール」開催。
サッカー＆パワーヨガ教室 |
| 6月30日 | スポーツ支援自販機、岩瀬スポーツ公園内に7台目の設置 |
| 9月10日&11月12日 | おやべスポーツクラブ「わんぱくチャレンジ」コーチ派遣 |
| 9月29日 | サッカースクール会員ミーティング開催 |
| 11月13日 | カターレ富山公式戦に
『がんの子供を守る会富山支部』ご招待 |



編集後記

男子がアジアの頂点に立ち、女子が世界を制した2011年の日本サッカーベース。巻頭にお届けした小野さんの講演が行われたのは(少し時間が経ちましたが)、まさにアジアカップのグループリーグ期間中。講演当日の全国紙朝刊にも、小野さんによる日本ーシリア戦の講評が掲載されていました。

東日本大震災・福島第一原子力発電所事故と、日本の根幹を揺るがす大災害が起こり、今なお多くの人々が不自由な生活を強いられています。戦後最大の国難を乗り切るために、今こそスポーツの理念が必要である…小野さんの講演を振り返って、あらためてそんな思いを抱きました。

悲劇を乗り越え、2012年が力強い希望の年になることを祈らずにはいられません。



事務局

〒930-0818 富山市奥田町 12-41-203
Tel.Fax.076-439-9277

E-mail (pc) saeaki@toyama-sc.com
URL <http://www.toyama-sc.com>

Vol.9 発行日：2011年12月20日
[発行] NPO法人富山スポーツコミュニケーションズ
[発行人] 佐伯仁史

クラブライフが心からだと暮らしを変える